

<米原市 健康福祉部 高齢福祉課 様>

上映日：2026年03月09日（月）

場所：米原市役所本庁舎1階コンベンションホール（滋賀県米原市）



座学では伝わりにくい「新しい認知症観」を、映画を通じて考えるきっかけに。

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

本市では、令和7年度からチームオレンジ活動を推進していますが、認知症や認知症の人への正しい理解、無意識の壁をなくすことが課題となっていました。

そこで、認知症を「人生の終わり」ではなく「新たな始まり」として描いた映画『オレンジ・ランプ』の上映を企画しました。

当事者の思いに寄り添い、誰もが自分らしく暮らせる共生社会について考える機会とすることを目的としました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

担当課の職員です。

●地域の方や関係者にどのように告知をしましたか？

市内介護保険サービス事業所や居宅介護支援事業所へチラシ（メールを含む）の配布や認知症予防教室、認知症サポーター・キャラバンメイトの定例会で周知を行いました。また、市役所職員には庁内の掲示板を用いて周知を行っています。メール等よりも教室や定例会等の機会に直接伝える方が申込みは増え、効果的な印象を受けました。

●上映会当日の様子や反響を教えてください。

上映中には涙ぐまれる方や、上映後の休憩時間に映画や認知症について語り合う場面も見られました。

参加者からは「認知症の見方が変わりました」という声が多く、「みんなで寄り添える社会であってほしい」

「周りに迷惑をかけるからなりたくない」と思っていたが、甘えてもよいんだと少し心が軽くなった」など、従来の座学では引き出すことが難しかった感想や反応がありました。

認知症当事者の視点に立ち、認知症を我が事として見つめ直す機会になったと感じています。

●今回の活動を通じて、地域作りや今後の活動に繋がりましたか。

普段の活動では接点が少なかったサポーターや介護家族との新たな交流が生まれ、チームオレンジ活動や認知症の情報を広く周知する絶好の機会となりました。

特に、県内の当事者・ご家族にご登壇いただいたことで、若年性認知症コーディネートとも繋がれたことや当事者の切実な想いを直接伺えた経験は、今後の認知症施策を検討する上で貴重な経験になったと感じています。

●上映会を開催してみて、いかがでしたか？

新しい認知症観の普及については、担当者としても抽象的で難しさを感じていましたが、映画という題材を通じて、目指すべき社会の姿を参加者と共有し、考えるきっかけをつくることができたと感じています。

アンケートには「本人の声を大切にすることの重要性を痛感した」といった声が寄せられました。

当事者にも登壇いただいたことで、参加者が認知症へのネガティブなイメージを払拭し、今後の地域活動につながる大きな原動力になったと感じています。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

映画による啓発は、世代を問わず気軽に触れることができる媒体だと感じました。

認知症への先入観も自然に見つめ直すことができました。

難しく考えず、色んなところで上映していただきたいです。

ご担当者：入野さん